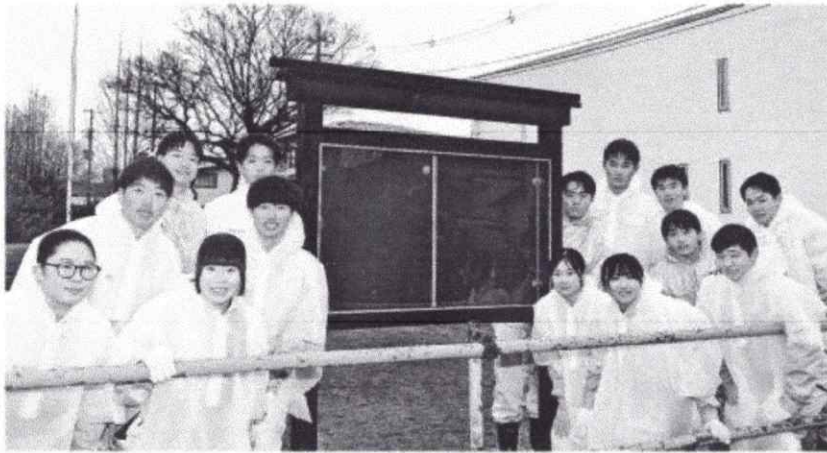


秋田市保戸野の秋田工業高校の3年生が、学校で培ったものづくりの知識を生かして地域に貢献した。建築科の生徒が近隣の町内会に掲示板を、機械科の生徒が聖霊高校(同市)に空き缶プレス装置をそれぞれ製作して寄贈。住民や生徒から感謝の声が上がった。

生徒が自ら決めたテーマについて情報収集や製作に取り組む「課題研究」の授業の一端。今年4月以降、週1回の授業や放課後の時間を使い、相手側の要望を聞き取るなど、試行錯誤を重ねながら完成させた。建築科の14人は、学校近くにある



秋田工高3年生

ものづくりで地域貢献

金砂神社前の掲示板が老朽化して使えなくなったことを聞き、代わりとなる掲示板を製作。地元町内会が見守る中、15日に神社前に設置した。サイズは高さ約2・2m、幅約1・7m。町内会長の金子治生さん(65)らの要望を基に、神社の雰囲気になじむ深い茶色に塗った。掲示物を雨風から守るアクリル板も取り付けられた。材料は身近な所で入手できるものを使い、壊れても住民が修理しやすいように配慮した。

金子さんは「クマが出没したことを、住民に掲示板で伝達できずに困っていた。未永く大切にしたい」と喜びを語った。

機械科の7人は、聖霊高のボランティア団体「聖母会」に空き缶プレス装置をら台贈った。寄付金に換えるため回収したアルミ缶を、団体の生徒たちが足で直接つぶしていることを知り、少ない力で効率よく缶をつぶせたら便利で助かると考え、製作することにした。

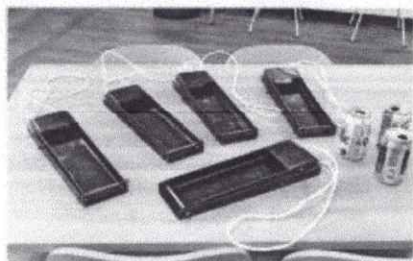
上下に重なる鋼板の間に缶を挟み、片足で踏むとつぶれる仕組み。この原理を応用しており、秋田工高の生徒が1から設計した。かまなくても上の板を持ち上げられるよう、持ち手にひもを取り付けたり、けがをしないように角の部分をやす

町内会の掲示板を製作し設置した建築科の生徒

近隣町内会へ掲示板製作 / 聖霊高に空き缶プレス装置



アルミ缶プレス装置を聖霊高の生徒に贈呈する筒井さん(左)



機械科の生徒7人が製作した装置

要望聞き取り試行錯誤

聖母会の部員(2年)は「ボランティア活動を支えてもらいうれい。装置を活用し、苦しんでいる人に寄付金を届けたい」と感謝していた。掲示板とプレス装置の製作は、生徒が相手に寄り添ったものづくりを学ぶ機会にもなった。建築科の高橋

音奏さん(3年)は「町内会の皆さんの意見交換を通じコミュニケーション力が身に付いた。生徒同士で改善点を話し合い、時にはやり直しもした。完成させることができてよかった」と振り返った。機械科の筒井称皇さん(3年)は「作るまで大変だったが、聖霊高の皆さんの笑顔を見て、頑張ってたと思った」と達成感をにやませた。

(清水美沙)